

1 派遣期日 平成 2 2 年 6 月 2 6 日 (土)

2 研修先 学校名 福島大学附属中学校
所在地 福島市浜田町 1 2 - 2 6
<http://www.educ.fukushima-u.ac.jp>

3 研修内容

平成 22 年度福島大学附属中学校学校公開「学習指導法研究会」

(1) 公開授業Ⅰ

技術・家庭科 (技術分野)「オリジナルストラップをつくろう」授業者 高萩 雅人

学習課題 「金属、プラスチックの本当の姿を明らかにしよう」

この授業は、身近な製品の素材を意識させたいと考えて、木材、金属、プラスチックを材料として加工体験させる授業である。

生徒にとっては、製品として利用している材料でも、その特徴や成形の過程などはわかっていないことが多いという実態から、指導を進める中で、材料についての理解を深めるとともに、実際に加工体験実習を実施し、身の回りの製品の製作過程を想起できるような配慮が展開の随所に見られた。また、指導過程では、生徒のつまづきを発見し、適切な助言や支援を通して、一人一人の技能・知識の定着を確認し、作品づくりを通して達成感や成就感を味合わせるような意図的な机間巡視があった。授業の終盤では、毎時間の製作実習カードを記入させ、授業を振り返る時間を設けて次時への見通しを持たせていた。

(2) 公開授業Ⅱ

数学科 「標本調査<小は大を兼ねる?~実験データの多角的な分析を通して>」授業者 本多 英弥

学習課題 「花を 1 0 0 0 本咲かせるために必要な種の個数を調べるには、どのような点に注意しなければいけないか」

この授業は、日常生活や社会に於ける事象に関する問題を取り上げ、主体的な活動を中心にして標本調査の意義とよさを実感させる授業である。

小学校においては、すべての資料がそろえられていることを前提に、棒グラフや折れ線グラフなどを使って資料の傾向を読み取ることを学習したものの、日常生活や社会においては、資料が全体の一部分しかないことが多いため、授業者は、標本調査の意義とよさを実感させたいと考えていたようであった。

標本調査では、母集団についての確定的な判断は難しさを伝え、このため標本調査をする際に、予測や判断に誤りが生じる可能性を体験的に理解させていた。模擬的であっても実際に標本調査を経験させることのねらいは、無作為抽出の意味と必要性を捉えさせようという発展的な内容であった。

(3) 全校合唱

全校合唱 「I♥××× (アイ・ラヴ)」 「大地讃頌」

公開授業Ⅰ及びⅡ終了後、生徒たちは教師の指示なしに、体育館に無言で集合。整列が始まった。校長を含めた教師は、所定の場所に整列 (やはり無言)。伴奏者及び指揮者は生徒で全校合唱を披露した。体育館のギャラリーでの鑑賞であったため、全体の様子がわかったが、全員が歌っている事がわかった。体育館が響き渡るような美しい合唱であり、同校がこの合唱に力を入れていると心豊かな指導に取り組んでいる様子を知ることができた。

(4) 全体会

「学び続ける生徒の育成 研究概要」

研究委員長 高萩 雅人

福島大学附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校の4つの学校園が連携し，同じまなざしで子どもたちを育てていくことの重要性を認識し，KeCoFu プロジェクト（Key Competency of Fukushima Fuzoku project）を立ち上げている。そして，4つの学校園で，次のような「求める人間像」を掲げていた。

【求める人間像】

自己デザインができる人間
～自分を見つめ，自分で生き方を創っていくことができる人間～

また，そのような人間に必要とされる主な資質や能力（Key competency）を精選し，育てたいキーコンピテンシーを，次のように設定している。

【育てたいキーコンピテンシー】

○問い続ける力 ○人間関係をつくる力 ○自分を見つめる力

「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という思いや願いをもって学習に取り組むことは，自分を振り返り見つめ直す力や，課題解決に主体的に取り組むために問い続けていく力を養う事になる。そして，互いに学び合う中でよりよい人間関係を築いていくものにもなる。附属中学校では，研究を推進し実践していくことによって，これらのキーコンピテンシーが育成されるものと考えており，教師一人一人が意識して研究実践してきている。

(5) 全体会

「授業が変われば生徒が変わる，生徒が変われば学校が変わる」

福島大学人間発達文化学類教授・福島大学附属中学校校長 白石 豊

講演の中で白石校長は，世界で活躍する多くのスポーツ選手や指導者に対するメンタルトレーニングを通しての経験、自身の学生時代の様々な経験、専門である体操運動する際の動作を交えながら、「運動や勉強や教育などさまざまな分野で、成功するにはコツがある。目標設定や問題意識を持つことが大切である」を述べていた。

4 感 想

福島大学附属中学校では，「学び続ける生徒の育成」に向かうには，教師一人一人が研究するにあたって大切なのは，

- 知識及び技能を習得させること
- 学んだ知識・技能を活用させるための手立てを講じること
- 学ぶ楽しさや「わかる・できる」喜びを味あわせること
- 互いの考えを伝え合わせるための手立てを講じること

以上4点に集約できると考えて研究を進めている。この4点を具現化するために，生徒とのコミュニケーションスキルや生徒の見取り、考えの生かし方・まとめ方等の授業力の向上に努めている点に大変な感銘を受けた。この感銘を胸に日々の勤務の中の授業実践に生かし，自らも自己研鑽に努めていく意志を新たにした。